

令和 7 年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和 8 年 8 月

滝 川 市 教 育 委 員 会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされています。

滝川市教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、「滝川市教育推進計画」の施策の中から選択した4事業に係る事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、報告書を作成いたしました。

この点検・評価報告書を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進してまいります。

令和8年8月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況	1
(2) 条例・規則の制定状況	4

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価の方法について	5
(2) 点検・評価の流れについて	5
(3) 点検・評価対象事業について	5
令和7年度点検・評価対象事業一覧	6
(4) 点検・評価に関する報告書	
1 豊かな心の育成	7
2 健やかな体の育成	14
3 生涯学習の推進	24
4 教育DXの推進	29

1 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことで様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

ア 教育委員会会議（12回開催）

R 7. 4. 25	報 告	①3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②道費負担教職員人事の内申について ③令和5年度卒業式及び令和6年度入学式における国旗・国歌の実施状況について
	議 案	報告第1号 臨時代理について（学校職員の処分内申について） 議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市個人情報等の適正管理に関する規程の一部を改正する規程 議案第3号 滝川市教育支援委員会議委員の選出について 議案第4号 滝川市文化財保護審議会委員の委嘱について
	その他	①各所管の年間業務スケジュールについて ②運動会の日程について
R 7. 5. 23	報 告	①4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②道費負担教職員人事の内申等について ③一般財団法人滝川生涯学習振興会の経営状況について ④「滝川市新小学校整備基本計画策定に向けた意見募集」の実施結果について
	議 案	議案第1号 滝川市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 議案第2号 江陵中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第3号 明苑中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 開西中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第5号 令和7年度教育予算6月補正について
R 7 6. 24	報 告	①5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②社会教育施設の利用状況について
	議 案	議案第1号 工事請負契約の締結について（新B & G海洋センター新築工事）
R 7. 7. 18	報 告	①6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察
	議 案	議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則

R 7. 8. 19	報 告	① 7 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 道費負担教職員人事の内申について ③ 公の施設の指定管理者の公募について
	議 案	議案第 1 号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について 議案第 2 号 滝川市教育支援委員会議委員の選出について 議案第 3 号 令和 8 年度に使用する小・中学校用教科用図書の採択について 議案第 4 号 令和 8 年度に使用する高等学校用教科用図書の採択について 議案第 5 号 令和 7 年度教育予算 9 月補正について
R 7. 9. 26	報 告	① 8 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 令和 7 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について（回答）
R 7. 10. 27	報 告	① 9 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 道費負担教職員人事の内申について ③ 「インターネット利用に関する意識調査」の結果について ④ 新 B & G 海洋センター愛称募集に係る実施結果について
	その他	① 令和 7 年度全国学力・学習状況調査結果について～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～
R 7. 11. 19	報 告	① 10 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 道費負担教職員人事の内申について ③ いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察 ④ 公の施設の指定管理者の公募結果について ⑤ 陶芸センターの今後について ⑥ 旧硬式テニスコート跡地利用の検証結果について
	議 案	議案第 1 号 滝川市の公の施設の雨竜町民の利用について 議案第 2 号 令和 7 年度教育予算 12 月補正について
R 7. 12. 18	報 告	① 11 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
R 8. 1. 29	報 告	① 12 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 道費負担教職員人事の内申について
	その他	① 令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の公表について
R 8. 2. 17	報 告	① 1 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 道費負担教職員人事の内申について
	議 案	議案第 1 号 令和 8 年度教育予算について 議案第 2 号 令和 8 年度教育行政執行方針について 議案第 3 号 滝川市 B & G 海洋センター条例 議案第 4 号 滝川市公民館条例の一部を改正する条例 議案第 5 号 たきかわホール条例を廃止する条例 議案第 6 号 こども科学館条例を廃止する等の条例

		議案第 7 号 滝川市陶芸センター条例を廃止する条例 議案第 8 号 不動産の無償貸付けについて 議案第 9 号 公の施設の指定管理者の指定について 議案第 10 号 公の施設の指定管理者の指定について 議案第 11 号 令和 7 年度教育予算 3 月補正について
	その他	①令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について～滝川市立小学校、中学校の体力の状況等～
R 8. 3. 24	報 告	① 2 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ② 令和 7 年度卒業生進路決定状況について
	議 案	議案第 1 号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第 2 号 滝川市教育委員会公印規則の一部を改正する規則 議案第 3 号 滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 4 号 たきかわホール条例施行規則を廃止する規則 議案第 5 号 滝川市陶芸センター条例施行規則を廃止する規則 議案第 6 号 滝川市公民館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 7 号 滝川市 B & G 海洋センター条例施行規則 議案第 8 号 滝川市こども科学館条例施行規則を廃止する等の規則 議案第 9 号 滝川市こども科学館名誉館長規程を廃止する規程 議案第 10 号 第 2 期後期滝川市小・中学校適正配置計画（案）について 議案第 11 号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第 12 号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	①辞令交付式等

イ 教育委員協議会（8 回開催）

開催日	調 査 及 び 研 究 内 容
R 7. 7. 18	・ 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
R 7. 8. 19	・ 第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画改訂（案）について
R 7. 9. 26	・ 第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画改訂（案）に係る報告について
R 7. 10. 27	・ 第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画改訂（案）に係る報告について ・ 滝川第一小学校建替整備基本計画の進め方について
R 7. 11. 19	・ 第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画改訂（案）に係る経過報告について ・ 滝川第一小学校建替整備基本計画に係る経過報告について
R 7. 12. 18	・ 「第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画」改訂（案）に係る経過報告について ・ 特認校制度について
R 8. 1. 29	・ 令和 8 年度予算要求の概要について ・ 「第 2 期滝川市小・中学校適正配置計画」改訂（案）に係る経過報告について

	て ・「第２期後期滝川市小・中学校適正配置計画」（案）策定に係る方針説明及び 草案協議について
R 8. 2. 17	・令和８年度教育行政執行方針について ・「第２期滝川市小・中学校適正配置計画」改訂（案）に係る経過報告について ・「第２期後期滝川市小・中学校適正配置計画」（案）策定に係る前回からの修正事項及び草案協議について ・「滝川第一小学校建替整備基本計画策定業務」に係る中間報告について

（２）条例・規則の制定状況

令和７年度に制定又は改正された教育関係条例の数は１件、教育委員会規則の数は５件です。
 （施行年月日がＲ 7. 4. 1～Ｒ 8. 3. 31のもの）

ア 教育関係条例

題 名	施行年月日
滝川市水泳プール条例を廃止する等の条例	Ｒ 7. 4. 1

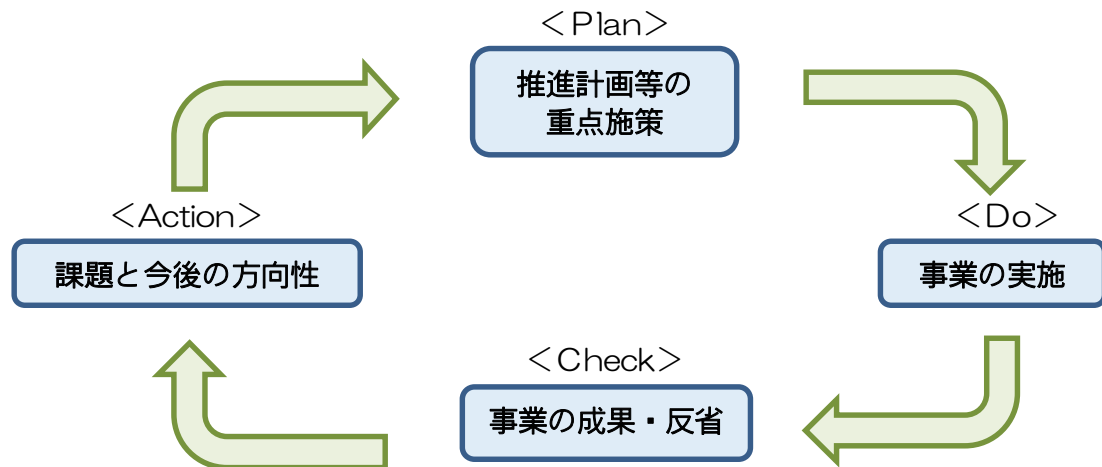
イ 教育委員会規則

題 名	施行年月日
滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則	Ｒ 7. 4. 1
滝川市立学校の児童及び生徒の災害共済給付に係る共済掛金の徴収に関する規則の一部を改正する規則	Ｒ 7. 4. 1
滝川市水泳プール条例施行規則を廃止する規則	Ｒ 7. 4. 1
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	Ｒ 7. 4. 25
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	Ｒ 7. 7. 18

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価の方法について

点検・結果のフィードバックについては、P.D.C.Aサイクルに基づき、令和7年度重点事業における目標と成果の確認を適切に実施し、来年度に向けた課題とその解決に向けての方向性を決定します。



(2) 点検・評価の流れについて

ア 点検・評価シートの作成

教育委員会所管課において、点検・評価シートを作成し、実施事業に対する評価・反省を行います。

イ 外部評価の実施

外部評価会議を開催し、点検・評価シートに基づくヒアリング（目標、実施状況、評価・反省点、今後の課題・取組の方向性）を実施し、各取組に対する評価・意見をいただきます。

ウ 点検・評価の報告書作成

外部評価の決定後に点検・評価報告書案として、直近の教育委員会会議に付議し、承認を受けたのち、市議会の所管常任委員会（総務文教常任委員会）に報告書を提出します。

報告後、市のホームページに掲載し、報告書を公表します。

(3) 点検・評価対象事業について

平成24年度から「滝川市教育推進計画」に基づき点検・評価を行っており、令和8年度は、令和7年度に実施した事業で、「滝川市教育推進計画」に位置付けられた施策の中から決定した4事業について点検・評価を実施しました。

※次頁の「令和7年度点検・評価対象事業一覧」参照

「令和7年度点検・評価対象事業一覧」

1	教育推進計画の重点方針	豊かな心の育成	教育総務課
	教育推進計画の施策の方向性	○ 子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性などを育む。 ○ いじめなどへの対応について、警察や関係機関との連携強化を検討する。	
	教育推進計画の主な取組	○ いじめ防止対策 ○ いじめ対応における警察や関係機関との連携強化	
2	教育推進計画の重点方針	健やかな体の育成	学校運営課 滝川西高等学校 事務局
	教育推進計画の施策の方向性	○ 教育内容・方法等の変化や多様化への対応などの教育環境の質的向上を図ることを含め、学校施設の計画的な老朽化対策や学習教材の充実を進める。 ○ 学校管理下における障がいや重度の負傷を伴う事故を発生させないよう地域ぐるみで児童生徒の安全確保に取り組む。	
	教育推進計画の主な取組	○ 安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○ 学校施設老朽化への対応	
3	教育推進計画の重点方針	生涯学習の推進	社会教育課 図書館
	教育推進計画の施策の方向性	○ 各教科の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれらを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する。 ○ キャリア教育を中心として、地域や企業と学校が連携して、リアルな体験活動の充実に取り組む。	
	教育推進計画の主な取組	○ STEAM教育の実践 ○ 企業との連携による学びの推進 ○ 情報拠点としての図書館の充実	
4	教育推進計画の重点方針	教育D Xの推進	滝川西高等学校 事務局
	教育推進計画の施策の方向性	○ 刻々と変化する社会に対応し、職業に関して必要な知識やスキルを身に付けて、「学び」と「労働」の循環につなげることができるよう、社会人が学べる環境の整備を推進する。	
	教育推進計画の主な取組	○ 滝川西高等学校における専門教育の充実	

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 7 年度	所管課名	教育総務課
------	---------	------	-------

推進計画の重点方針	豊かな心の育成
推進計画の 施策の方向性	<p>○ 子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性などを育む。</p> <p>○ いじめなどへの対応について、警察や関係機関との連携強化を検討する。</p>
推進計画の主な取組	<p>○ いじめ防止対策</p> <p>○ いじめ対応における警察や関係機関との連携強化</p>

① 達成目標 (Plan)	<p>いじめ防止対策</p> <p>～各学校のいじめ対策組織の体制を十分に機能させ、SNS によるいじめも含めた、いじめの未然防止と早期発見・早期対応を行う。</p> <p>いじめ対応における警察や関係機関との連携強化</p> <p>～犯罪行為として取り扱われるべき重大ないじめについては、早期に警察や関係機関と相談し、緊密に連携した対応を行う。</p>
② 実施状況 (Do)	<p>①いじめの未然防止と早期発見・早期対応に向けた「学校風土」づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校と市教委でいじめ防止に関わる日常的な取り組みや課題意識を共有した。 ・各学校においていじめを積極的に認知し早期発見・早期対応を進めるために、年 3 回のいじめアンケートの集計や分析を行い各学校と共有した。 ・SNS の適切な使用については、ANA システムズ（株）等による情報モラル教室を複数の小・中学校で参観日と同日程で実施するなど、各校で情報モラル教育の取り組みを進めた。 ・市内の小・中学校の児童生徒の代表が集まり、各校の「いじめのない学校づくり」の取り組みを交流する「絆づくり成果交流会」を開催した。 <p>【いじめのない学校づくりのための日常的な取り組み例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個の成長支援 適切な行動への賞賛・承認や、自己決定の場の提供により、自己肯定感と自律的な自己指導能力を育む。 2. 安心できる集団づくり 教職員の率先垂範と客観的データ（Hyper-QU 等）の活用により、一人一人が大切にされる心の居場所と共感的な人間関係を構築する。 3. 魅力ある授業の実践 全員に出番がある生徒指導の機能を重視した授業を展開し、学習への主体性と自己存在感の感受を促進する。 4. 協働と社会とのつながり 児童生徒同士の協働的な学びや、地域の人材・施設を活用した活動を通じ、多様性を尊重する姿勢を養う。 <p>②各校のいじめ対策組織の体制を機能させる取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が組織的かつ外部機関と連携していじめ問題に対応できるよう、「いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャート」の改訂を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめを認知した際は、各学校のいじめ対策組織において、滝川市独自の「いじめ個別報告書」を作成し、対策を協議した。 <p>③生徒指導主事会議・研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内小・中学校の生徒指導主事をはじめとする教員が参加した研修会の講師に札幌方面滝川警察署の生活安全課長を招き、講演および質疑応答を実施した。いじめ対応等に関わる学校と警察の連携の必要性について理解を深めた。 <p>④滝川市いじめ問題対策連絡協議会・滝川市いじめ防止専門委員会の開催。（各年２回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滝川市いじめ問題対策連絡協議会（以下、協議会）は、学校関係者、警察、法務局、民生委員などが出席し、それぞれの専門知識や経験に基づいた意見を交流し、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図った。いじめ防止専門委員会（以下、委員会）は大学教授、心理士、保護司などが出席し、いじめ防止対策の実効的な推進に関する重要事項を調査・審議した。
<p>③ 評価・反省点 (Check)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートを集計・分析することによって、いじめの積極的認知が進み早期発見・早期対応につながっている。 ・ 絆づくり成果交流会では、各中学校区内で活発な議論を進めるなど、他校の取り組みを参考にしていじめ対策に取り組む児童生徒の姿が見られた。 ・ 改訂した「いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャート」や「いじめ個別報告書」を市内全ての学校で活用し、学校のいじめ対応の迅速化を進めた。 ・ 生徒指導に関わっては、学校のみで対応する傾向にあった。しかし、研修会後は、学校が速やかに警察に相談する事例が見られ、警察との連携が進んだ。 ・ いじめの未然防止、早期発見・早期対応に関わる知見を協議会や委員会で得ることができた。 ・ SNS を介したいじめは表面化しにくいことに加え、SNS 使用の低年齢化が進んでいるため学校では指導および対応に苦慮している。
<p>④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を介したいじめなど表面化しにくいいじめが増加していて、学校では気づきにくく十分な対応ができないのが現状である。複雑化したいじめに対応するためには、家庭や関係機関との一層の連携を図り、課題意識を共有することが重要になる。 ・ SNS 使用に関しては、「低年齢化」や「トラブルが表面化しにくい」など様々な課題が見られる。児童生徒が情報モラルを持ち合わせるためには、学校だけではなく、家庭での指導が重要になる。 ・ 学校と連携し、いじめの積極的認知を進め、早期発見・早期対応につなげる。 ・ 絆づくり成果交流会は、今年度は集合形式にすることで活発な意見交流を推進する。 ・ 滝川市いじめ問題対策連絡協議会および滝川市いじめ防止専門委員会は、「いじめは絶対に許されない」という立場のもと、いじめの未然防止、早期対応・早期解決が図れるよう、関係機関と連携を密に取り組んでいく。

全体を通じて（評価ポイント）

1. 児童生徒が主体となる「未然防止」の取り組み

各校における日常的ないじめ防止の取組を交流し、「いじめのない学校づくり」を児童生徒が主体的に考える「絆づくり成果交流会」を開催。優れた実践や成果を共有し、自校の取組へと還元することで、日常的な「いじめのない学校」の実現を目指しています。

2. 積極的な認知による「早期発見・早期対応」ができる組織づくり

アンケートや日常の聞き取りからいじめを積極的に認知する「いじめを見逃さない学校づくり」を推進。さらに、改訂した「対応フローチャート」や「いじめ個別報告書」を市内全校で活用し、学校が迅速に対応する基盤を確立しています。

3. 外部機関との連携と教職員の意識変革

いじめに関する諸課題を取り扱った研修会、協議会および委員会の開催を通じ、いじめへの知見だけではなく警察等の関係機関との連携体制を構築しました。教職員の意識変革も進み、警察との相談・連携が迷いなく行われるようになっていきます。

4. SNS使用に関わる家庭との危機感の共有や連携に対する課題

現在のいじめはSNSを介したものなど多岐に渡っているため、学校での対策には限界があります。家庭とも危機感を共有し連携を深めることが課題です。

今後は、具体的な事例を用いた実践的な研修の実施や定期的な情報交流を通じて、未然防止から早期対応、そして早期解決にいたるまでの体制をより強固なものにします。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・ いじめのアンケート回数の増など、いじめの積極的認知に努めたことは評価するが、今後このようなデータを開示する時には、不登校生徒との関連を示すことも必要ではないか。
- ・ いじめの認知件数はかなりの件数であるが、初期段階のものも含めて積極的に認知し、解決に向けて努力していると思う。
- ・ 絆づくり成果交流会は歴史もあり、いじめの未然防止につながっていて、近隣の市町村も滝川市の取組を見習っており、素晴らしいと思う。これからもマンネリ化せず、改良しながら継続してほしい。
- ・ 情報モラル教室など外部の力を借りながら継続して実施してほしい。SNSによる表面化しにくいいじめ対策は必要。低年齢化もしていることから、保護者にも理解してもらうことが必要。

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Plan (達成目標)

- ①各学校のいじめ対策組織の体制を十分に機能させ、SNSによるいじめも含めた、いじめの未然防止と早期発見・早期対応を行う。
- ②犯罪行為として取り扱われるべき重大ないじめについては、早期に警察や関係機関と相談し、緊密に連携した対応を行う。

Do (実施状況)

- ①いじめの未然防止と早期発見・早期対応にむけた「学校風土」づくりの推進
～年3回実施するいじめアンケートの集計・分析などで積極的認知を進めた。小・中学校の代表者が集まり日常の取組などを交流する「絆づくり成果交流会」を開催した。SNSの適切な使用については、情報モラル教室を実施するなどの取り組みを進めた。
- ②各校のいじめ対策組織の体制を機能させる取り組み
～学校が組織的かつ外部機関と連携していじめ問題に対応できるよう「いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャート」の改訂などを進めた。
- ③生徒指導主事会議・研修会の実施
～滝川警察署の生活安全課長を招き、講演および質疑応答を実施。いじめ対応等に関わる学校と警察の連携の必要性について教職員と共有した。
- ④滝川市いじめ問題対策連絡協議会・滝川市いじめ防止専門委員会の開催
～いじめ問題対策連絡協議会は、学校関係者、警察、法務局、民生委員などが出席し、それぞれの専門知識や経験に基づいた意見を交流し、関係機関の連携を図った。いじめ防止専門委員会は大学教授、心理士、保護司がいじめの防止等のための対策の実効的な推進に関する重要事項を調査・審議した。

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

【参考資料1】令和7年度 月別いじめの認知件数（滝川市小・中学校）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学校	0	0	259	0	0	2	251	1	1	0	152	0	666
中学校	0	0	37	0	1	2	22	2	1	2	19	1	87
計	0	0	296	0	1	4	273	3	2	2	173	1	750

【参考資料2】R2～R6年度 いじめの認知件数（滝川市小・中学校）

	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	5	36	156	417	555
中学校	2	25	10	70	75
計	7	61	166	487	630

文部科学省では、いじめの認知件数が多い学校について、「いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた取組のスタートラインに立っている」と極めて肯定的に評価している。

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

【参考資料3】 いじめの態様（R7 滝川市小・中学校）

		小学校 666件	中学校 87件
いじめの 態様	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	512	66
	仲間はずれ、集団による無視をされる。	105	8
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	162	18
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	45	3
	金品をたかられる。	0	0
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	28	3
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	21	7
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	3	4
	その他	1	3

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Do（実施状況②）～絆づくり成果交流会～

各中学校区で協議した内容

テーマ「自分も相手も大切にするために」

中学校区	一人でできること	友だちとできること	みんなでできること
江陵中学校区	相手の気持ちを考え発言する。	意見を尊重し話し合う。	雰囲気作りを大切にする。
明苑中学校区	他学年との交流・挨拶など仲良くすること。	思いやりを持って行動すること。	平等に接して、明るい挨拶を心がけること。
開西中学校区	周りの人のことを考える。	相手のことを考えて話す。	助け合い、コミュニケーションをとる。

【各中学校区の協議シート】※Googleスライドを使用

江陵中学校区用 協議①「他の中学校区の取り組みを聞いて感じたこと」

参考になった点！

これから取り組んでみたいこと！

江陵中学校区

開西中学校区用 協議②「他の中学校区の取り組みを聞いて感じたこと」

参考になった点！

これから取り組んでみたいこと！

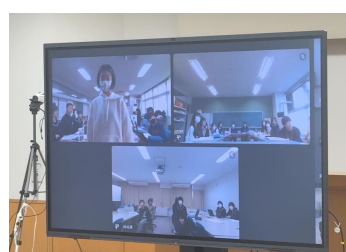
開西中学校区

明苑中学校区用 協議③「他の中学校区の取り組みを聞いて感じたこと」

参考になった点！

これから取り組んでみたいこと！

明苑中学校区



3 校区をオンラインで結んで協議を実施

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Do (実施状況③) ～情報モラル教室～

ANAシステムズによる情報モラル教室

小学生に多いSNSトラブルの具体例

- ① 性的な被害
- ② いじめ・仲間外れ
- ③ 高額課金・詐欺
- ④ 個人情報の漏洩・ストーカー被害
- ⑤ 著作権侵害

お客様視点
(相手の目線で考える)
まとめ

自分がされて嫌なことはしない！

相手の気持ちを想像し、尊重する言葉を使おう。



豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Do (実施状況④) ～滝川市いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャート～

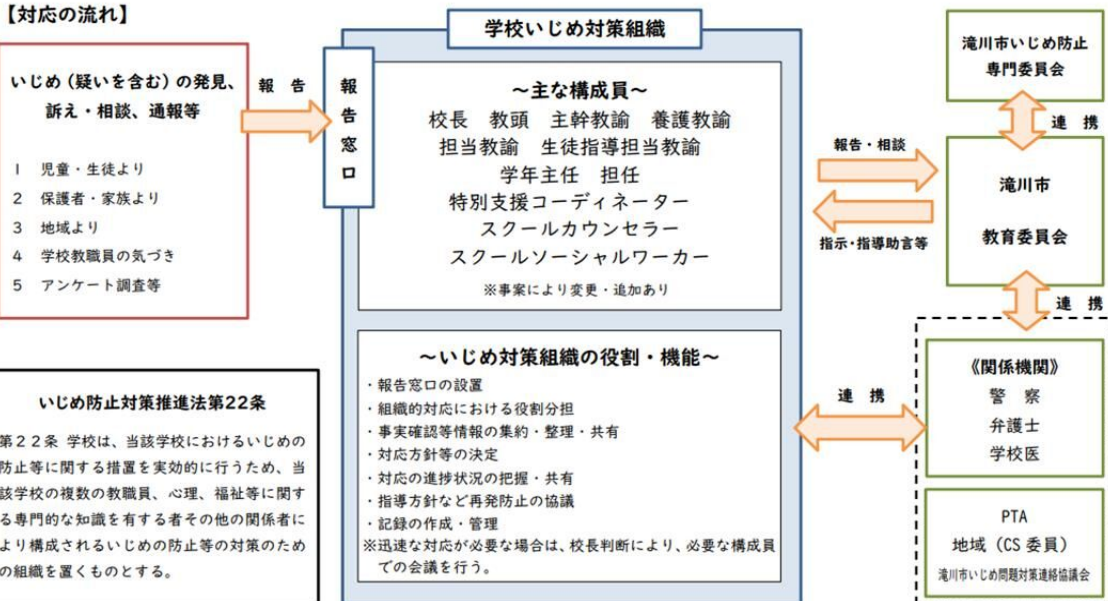
～いじめ個別報告書～

いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャート

いじめ個別報告書

- ① 児童生徒、保護者や地域住民等から通報・相談を受けた際は、その通報相談情報を学校いじめ対策組織の報告窓口へ報告する。
- ② 学校いじめ対策組織は、通報・相談情報を連絡として電話もしくはいじめ個別報告書(様式1)にて教育委員会へ報告するとともに、事実確認などの調査を実施する。
- ③ いじめ認知となった場合は、いじめ個別報告書(様式1)を作成(もしくは追記)し教育委員会へ報告。

【対応の流れ】



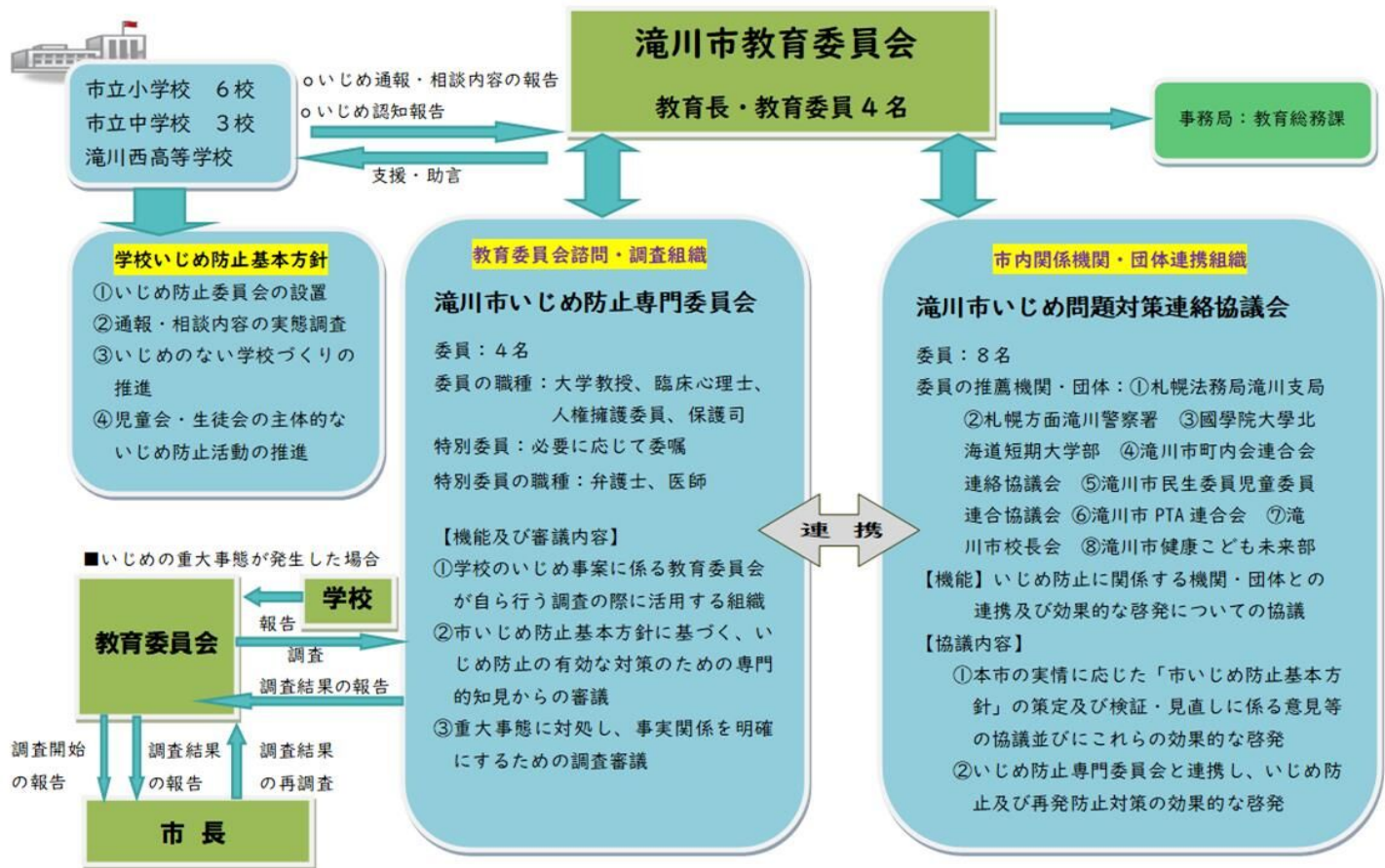
滝川市いじめ個別報告書		提出者	提出日
(様式1) いじめ個別報告書		学校名	
令和 年 月 日		提出者	
①いじめの発生状況(報告者) ※必要は○に記入		報告者	
②いじめの発生場所		発生場所	
③いじめの発生状況(被害者) ※必要は○に記入		被害者	
④いじめの発生状況(加害者) ※必要は○に記入		加害者	
⑤いじめの発生状況(関係者) ※必要は○に記入		関係者	
⑥いじめの発生状況(その他) ※必要は○に記入		その他	

各学校のいじめ対策組織において、いじめを認知した際は、滝川市独自の個別報告書を作成し、対応を協議する。

全てのいじめ対応を「個」ではなく、「組織」で対応する仕組み。

豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Do (実施状況⑤) ～「滝川市子どものいじめの防止等に関する条例」関係組織と役割～



豊かな心の育成 ○いじめ防止対策の充実 ○NPO・企業・地域団体等との連携・協働 ○いじめ対応における警察や関係機関との連携強化

Check (評価・反省点)

- ・ 学校が組織的にいじめに対応することで、いじめの早期対応・早期解決が進んだ。
- ・ 絆づくり成果交流会や情報モラル教室の開催で、課題意識を醸成できた。
- ・ 生徒指導主事研修会後は、学校が速やかに警察に相談する事例が増加するなど、警察との連携を意識した取り組みに変わった。
- ・ いじめの未然防止、早期発見・早期対応に関わる知見を協議会や委員会を得た。
- ・ 改訂した「いじめ対応フローチャート」や「いじめ個別報告書」を市内全ての学校で活用し、学校がいじめ対応を迅速化することができた。
- ・ SNSを介したいじめは表面化しにくいため学校での対応に苦慮している。

Action (今後の課題・取組の方向性)

- ・ SNSを介したいじめなどは学校では気づきにくく十分な対応ができないため家庭や関係機関との効果的な連携を進め課題意識を共有することが重要になる。
- ・ 学校と連携し、いじめの積極的認知を進め、早期発見・早期対応につなげる。
- ・ 学校の日常の取り組みの推進や関係機関との連携でいじめの未然防止を進める。
- ・ 滝川市いじめ問題対策連絡協議会および滝川市いじめ防止専門委員会については、「いじめは絶対に許されない」という立場に立ち、いじめの未然防止、早期対応・早期解決が図れるよう、それぞれと連携を密に取り組んでいく。



滝川警察署生活安全課長の講演（R7生徒指導主事会議・研修会より）

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 7 年度	所管課名	学校運営課
推進計画の重点方針	健やかな体の育成		
推進計画の 施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育内容・方法等の変化や多様化への対応などの教育環境の質的向上を図ることを含め、学校施設の計画的な老朽化対策や学習教材の充実を進める。 ○ 学校管理下における障がいや重度の負傷を伴う事故を発生させないよう地域ぐるみで児童生徒の安全確保に取り組む。 		
推進計画の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○ 学校施設老朽化への対応 		

① 達成目標 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「滝川市公共施設個別施設計画」と連動し、学校施設整備を推進する。 ・学校施設の点検を計画的に取組み、危険個所の事前把握・早期対応に努め、学校施設の老朽化に伴う事故の発生を防ぐ。
② 実施状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の減少が今後も見込まれる中、教育の質を維持・向上させ、将来にわたり持続可能な教育環境を確保することを目的とした「第 2 期後期 滝川市小・中学校適正配置計画」を改訂することにより、統廃合を含めた将来的な学校の方向性が整理され校舎の新增改築や改修等の必要性をさらに具体的に見通すことが可能な環境を整えた。 ※第 2 期後期 滝川市小・中学校適正配置計画－別添 1 ・安全・安心で質の高い教育環境の確保のため、次のとおり教育環境整備を行った。 ※照明設備 LED 化・空調設備設置－別添 2 ・学校施設の老朽化に伴う事故防止のため、定期的に学校施設外部状況等調査を実施するとともに、安全・安心な学校運営の継続のため、学校の改修・修繕等を行った。 ※改修・修繕等－別添 3
③ 評価・反省点 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の減少が今後も見込まれる中、滝川第一小、滝川第二小、西小、江部乙小、江陵中、開西中の統廃合による学校の適正規模の保持により、教育の質を維持・向上させ、将来にわたり持続可能な教育環境を確保することが可能となった。 ・空調設備の整備により、危険な猛暑においても児童生徒が健やかに安心して学習できる環境の確保を行った。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・財源を踏まえた計画的な新增改築・改修の検討並びに統合に伴い廃止となる各校の校舎の活用及び解体の方針検討を要する。 ・学校の統廃合や今後における児童生徒数の減少を踏まえた、給食調理場の再編検討を要する。 ・文部科学省の交付金採択が不安定な状況の中で、市の限られた予算において施設整備を実現するため、より一層計画的に進めていくためさらなる工夫に努める。

全体を通じて（評価ポイント）
「第 2 期後期 滝川市小・中学校適正配置計画」の改訂により、これまで進めることが困難であった統廃合を踏まえた具体的な施設整備検討が可能となった。
外部評価会議委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に空調設備が完了し、今後は子どもたちが良い環境で学べることに安心している。 ・これまで校舎の計画的な点検が十分であったか。修復まで時間がかかった事案なども聞いている。今後は、事前の点検・計画のもと優先順位をつけて進めてもらいたい。

健やかな体の育成

Plan (達成目標)

- ・「滝川市公共施設個別施設計画」と連動し、学校施設整備を推進する。
- ・学校施設の点検を計画的に取組み、危険個所の事前把握・早期対応に努め、学校施設の老朽化に伴う事故の発生を防ぐ。

Do (実施状況)

- ・児童生徒数の減少が今後も見込まれる中、教育の質を維持・向上させ、将来にわたり持続可能な教育環境確保することを目的とした「第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画」を改訂することにより、統廃合を含めた将来的な学校の方向性が整理され校舎の新增改築や改修等の必要性をさらに具体的に見通すことが可能な環境を整えた。

第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画－別添1参照

- ・安全・安心で質の高い教育環境の確保のため、次のとおり教育環境整備を行った。

照明設備LED化・空調設備設置－別添2参照

LED化	84,359,000円
空調設置	535,766,000円

- ・学校施設の老朽化に伴う事故防止のため、定期的に学校施設外部状況等調査を実施するとともに、安全・安心な学校運営の継続のため、学校の改修・修繕等を行った。

改修・修繕等－別添3参照

改修・修繕等		
R5	R6	R7
42,175,200円	51,108,970円	15,504,060円

Check (評価・反省点)

- ・児童生徒数の減少が今後も見込まれる中、滝川第一小、滝川第二小、西小、江部乙小、江陵中、開西中の統廃合による学校の適正規模の保持により、教育の質を維持・向上させ、将来にわたり持続可能な教育環境を確保することが可能となった。
- ・空調設備の整備により、危険な猛暑においても児童生徒が健やかに安心して学習できる環境の確保を行った。

Action (今後の課題・取組の方向性)

- ・財源を踏まえた計画的な新增改築・改修の検討並びに統合に伴い廃止となる各校の校舎の利活用及び解体の方針検討を要する。
- ・学校の統廃合や今後における児童生徒数の減少を踏まえた、給食調理場（単独校：滝川第二小・東小・江陵中、共同調理場：滝川第三小（滝川第一小・滝川第三小・明苑中）・西小（西小・江部乙小・開西中）の再編検討を要する。
- ・文部科学省の交付金採択が不安定な状況の中で、市の限られた予算において施設整備を実現するため、より一層計画的に進めていくためさらなる工夫に努める。

「第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画」

第2期計画 後期(R8～R12)	
滝川第一小学校	存 続
滝川第二小学校	統合及び再編等の検討 が必要
滝川第三小学校	存 続
西小学校	今後のあり方の検討 が必要
江部乙小学校	地域実情を鑑みて存続 (検討も必要)
東小学校	存 続
江陵中学校	存 続
明苑中学校	存 続
開西中学校	今後のあり方の検討 が必要

第2期計画 後期(R8～R12)	
	存 続 (R13統合)
	存 続 (R18を用途に統合)
	存 続
	存 続 (R13統合)
	存 続 (R13統合)
	存 続
	存 続 (R13統合)
	存 続
	存 続 (R13統合)

○安全・安心で質の高い教育環境の整備

照明設備LED化

工 事 名	実施年度
東小学校電灯設備改修工事	令和5年度
明苑中学校電灯設備改修工事	〃
江陵中学校電灯設備改修工事	令和6年度

空調設備設置

工 事 名	実施年度
滝川市立小学校空調設備設置工事 (滝川第一小学校・滝川第二小学校・滝川第三小学校・西小学校)	令和5年度
滝川市立小学校空調設備設置工事 (江部乙小学校・東小学校)	令和6年度
滝川市立中学校空調設備設置工事 (江陵中学校・明苑中学校・開西中学校)	〃

※上記に先立ち、令和5年度において小中学校にスポットクーラー66台を導入

○学校施設老朽化への対応

主な改修・修繕等

工 事 名	実施年度
滝川第一小学校玄関ポーチ庇修繕工事	令和 5 年度
滝川第二小学校給水配管等改修工事	
滝川第二小学校体育館放送設備改修工事	
西小学校体育館放送設備改修工事	
東小学校体育館放送設備改修工事	
東小学校外壁改修工事	
東小学校灯油オイルポンプ取替改修工事	
東小学校プログラムタイマー更新工事	
江陵中学校給水直圧化改修工事	
江陵中学校二線校舎南側外壁修繕工事	
江陵中学校屋外時計取替工事	
滝川第二小学校放送設備改修工事	令和 6 年度
西小学校消火ポンプユニット取替工事	
江部乙小学校体育館屋根改修工事	
東小学校屋外時計取替工事	
江陵中学校体育館屋根改修工事	
江陵中学校廊下床修繕工事	
明苑中学校プログラムタイマー更新工事	
明苑中学校防火水槽修繕工事	
滝川第一小学校空調機改修工事	令和 7 年度
滝川第三小学校屋上機械室屋根修繕工事	
滝川第三小学校機械室 2～3 階系統床暖房循環ポンプ修理工事	
滝川市学校給食西小学校共同調理場エアコン部品交換修繕	
江陵中学校学校給食用小荷物専用昇降機修繕工事	

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 7 年度	所管課名	滝川西高等学校事務局
------	---------	------	------------

推進計画の重点方針	健やかな体の育成
推 進 計 画 の 施 策 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育内容・方法等の変化や多様化への対応などの教育環境の質的向上を図ることを含め、学校施設の計画的な老朽化対策や学習教材の充実を進める。 ○ 学校管理下における障がいや重度の負傷を伴う事故を発生させないよう地域ぐるみで児童生徒の安全確保に取り組む。
推進計画の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○ 学校施設老朽化への対応

① 達成目標 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「滝川市公共施設個別施設計画」と連動し、学校施設整備を推進する。 ・学校施設の点検を計画的に取組み、危険個所の事前把握・早期対応に努め、学校施設の老朽化に伴う事故の発生を防ぐ。
② 実施状況 (Do)	<p>(1) 電灯設備の LED 化改修工事を実施しました。 校舎内蛍光灯および校舎周辺の街灯（約 1,000 灯）を LED に交換しました。</p> <p>(2) エアコンの設置工事を実施しました（令和 8 年度より使用開始）。 普通教室ほか特別教室などに空調設備 44 台を設置しました。 ※設置箇所は別紙資料のとおり</p> <p>(3) 学校施設の修繕を実施しました。 ※実施した主な修繕等は別紙資料のとおり</p>
③ 評価・反省点 (Check)	<p>(1) 電灯設備の LED 化改修工事 本校では休日に講習会、模試、検定、部局の活動等で各教室を使用する機会が多い中、交換作業については計画どおり終えることができました。 また、黒板灯も LED となり板書が見やすくなったほか、生徒の机上においても適切な照度となったことで視認性が向上し、学習環境を改善することができました。</p> <p>(2) エアコンの設置工事 スポットクーラーよりも冷却効果の高い空調設備が設置されたことにより、室内での熱中症を防ぎ、授業に集中して取り組める環境を整えることができました。 キュービクル（高圧受電設備）の納品、交換作業が秋以降となっていたため、令和 8 年度からの使用開始となりました。</p> <p>(3) 学校施設の修繕 事故の発生を防ぐとともに学校生活や授業に支障がないよう修繕等を行いました。</p>

④
今後の課題・
取組の方向性
(Action)

学校施設の老朽化対策として危険箇所の把握に努め、必要な修繕については今後も計画敵に行
ってまいります。

全体を通じて（評価ポイント）

- （１）LED化により校舎全体が明るくなり、節電効果も期待しています。
頻繁に行っていた蛍光灯の交換作業もなくなりました。
- （２）これまで暑さ対策としてスポットクーラー（27台）を使用していましたが、冷房効果が低く、稼働音が大
きいため授業が聞き取りづらい、一斉に運転するとプレーカーが落ちてしまうこともありまし
た。
道立高校の多くは窓枠エアコンを導入していますが、滝川西高等学校ではより冷房能力が高い壁掛け式
エアコンを設置していることをオープンスクール（体験入学会）などでアピールしていきたいと考えて
おります。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・外目から見ても、道立学校より先んじた空調設備設置については、評価されるべき。
- ・空調設備は滝川市の財政も厳しいなか実施してもらって子どもたちも喜んでいると思う。

健やかな体の育成 ○安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○学校施設老朽化への対応

Plan (達成目標)

- ・「滝川市公共施設個別施設計画」と連動し、学校施設整備を推進する。
- ・学校施設の点検を計画的に取組み、危険個所の事前把握・早期対応に努め、学校施設の老朽化に伴う事故の発生を防ぐ。

Do (実施状況)

(1) 電灯設備のLED化改修工事を実施しました。

校舎内および校舎周辺の街灯（約1,000灯）をLEDに交換しました。



(2) エアコンの設置工事を実施しました。

普通教室のほか特別教室などに空調設備44台を設置しました（令和8年度より使用開始）。

4 階	書道室・音楽室B
3 階	普通教室（9室）・総合実践室・情報処理室・プログラミング室・パソコン実習室
2 階	普通教室（9室）・ワープロ室・LL教室・視聴覚室・第2職員室
1 階	職員室・進路指導室・校長室・事務室・業務主事室 ※保健室は設置済



健やかな体の育成 ○安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○学校施設老朽化への対応

(3) 学校施設の修繕を実施しました。

実施年度	実施した主な修繕等
令和5年度	体育館送風機ベルト交換修繕、体育館ボイラーフィルター交換修繕
令和6年度	格技棟外壁及びグラウンド防球ネット等改修工事、教室天井材等取替修繕
令和7年度	体育館防球ネット修繕及び滑車・ワイヤー取替修繕、体育館ボイラー煙道改修工事 サーバー室空調設備修繕、テニスコート支柱修繕、オイルポンプ系統スイッチ修繕

Check (評価・反省点)

(1) 電灯設備のLED化改修工事

本校では休日に講習会、模試、検定、部局の活動等で各教室を使用する機会が多い中、交換作業は計画どおり終えることができました。

また、黒板灯もLEDとなり板書が見やすくなったほか、生徒の机上においても適切な照度となったことで視認性が向上し、学習環境を改善することができました。

(2) エアコンの設置工事

スポットクーラーよりも冷却効果の高い空調設備が設置されたことにより、室内での熱中症を防ぎ、授業に集中して取り組める環境を整えることができました。

キュービクル（高圧受電設備）の納品、交換作業が秋以降となっていたため、令和8年度からの使用開始となりました。

(3) 学校施設の修繕

事故の発生を防ぐとともに学校生活や授業に支障がないよう修繕等を行いました。

Action (今後の課題・取組の方向性)

学校施設の老朽化対策として危険箇所の把握に努め、必要な修繕については今後も計画的に行ってまいります。

健やかな体の育成 ○安全・安心で質の高い教育環境の整備 ○学校施設老朽化への対応

全体を通じて（評価ポイント）

- （１）LED化により校舎全体が明るくなり、節電効果にも期待しています。
頻繁に行っていた蛍光灯の交換作業もなくなりました。
- （２）これまで暑さ対策としてスポットクーラー（27台）を使用していましたが、冷房効果が低く、稼働音が大きいため授業が聞き取りづらい、一斉に運転するとプレーカーが落ちてしまうこともありました。
道立高校の多くは窓枠エアコンを導入していますが、滝川西高等学校ではより冷房能力が高い壁掛け式エアコンを設置していることをオープンスクール（体験入学会）などでアピールしていきたいと考えております。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 7 年度	所管課名	社会教育課 社会教育課図書館
------	---------	------	-------------------

推進計画の重点方針	生涯学習の推進
推進計画の 施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれらを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する。 ○ キャリア教育を中心として、地域や企業と学校が連携して、リアルな体験活動の充実に取り組む。
推進計画の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ STEAM 教育の実践 ○ 企業との連携による学びの推進 ○ 情報拠点としての図書館の充実

① 達成目標 (Plan)	<p>【STEAM 教育の実践】</p> <p>①「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」を充実させ、地域との連携を強化した実社会での課題発見・解決に活かしていくための教科横断的な学習を行う。</p> <p>【企業との連携による学びの推進】</p> <p>②従来からのキャリア教育に加え、企業側からの主体的なアプローチにより、地元の人材を地元で育成するといった、学びを推進する。</p> <p>【情報拠点としての図書館の充実】</p> <p>③地域の情報拠点として「役に立つ魅力ある図書館」を目指し、行政や外部機関等と連携し、様々な情報を収集・提供することで、さらなる読書普及活動を推進する。</p>
② 実施状況 (Do)	<p>①-1. 北海道教育大学未来の学び協創研究センターにご協力をいただき、「教育大学 STEAM 教室 in 滝川市こども科学館」を開催した。 期間：令和 7 年 9 月 13 日（土）・14 日（日） 延べ参加者数： 60 人</p> <p>①-2. 大日本印刷株式会社様にご協力をいただき、滝川市こども科学館の中に探求的な学習の実証実験を行う施設として「ミラーボ」を開設した。 期間：令和 7 年 8 月 30 日（土）～11 月 30 日（日） 延べ参加者数 375 人</p> <p>②-1. 株式会社マツオ様をはじめ、株式会社植松電機様、Letala 株式会社様、FM なかそらち様など企業や機関にご協力をいただき、将来の職業選択につながる学びの機会を提供する「たきかわ DE 調べる学習体験講座」を開催した。 期間：令和 7 年 7 月 29 日～令和 8 年 1 月 9 日 7 コース、参加者数 220 名</p> <p>③-1. 地域の商店や団体・サークルにご協力をいただき、まちの情報を発信する展示「まちなかコンシェルジュ」を実施した。図書館で取材・作成したポスターについては、観光課や観光協会にも提供し、観光国際スクエアや道の駅たきかわでの情報発信にも活用されている。 期間：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 【お店編】 6 件、【団体・サークル編】 6 件</p> <p>③-2. 行政内部や外部機関などと連携し、図書と連携先から提供された情報リーフレットなどを組み合わせた展示を通して地域の情報を発信した。 期間：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 連携展示件数 162 件</p>
③ 評価・反省点 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育大学と連携したことにより、大日本印刷株式会社と繋がり、新たな取り組みに発展したほか、従来のこども科学館では取り組むことができていなかった最新機器を活用した学習プログラムの提供が可能となった。 ・STEAM 教室 in 滝川こども科学館に参加した子どもたちのモチベーションの変化を追跡した結果、子どもたちに挑戦から達成へというポジティブな経験を提供し、※1 自己効力感・創造性・※2 内省力の向上に寄与したと考えられる。また、体験によって得た具体的成果や結果は、達成感と学習意欲を高め、今後の学びへの自信につながったと評価できる。（アンケート調査結果） ※1 自己効力感=自分がある課題に対して「自分ならできる」「きつとうまういく」と自分の能力を信じ、行動できる状態のこと。 ※2 内省力=自分の思考や行動、感情の動きを客観的に見つめ直し、深い気づきを得て今後の成長や行動に活かす能力のこと。 ・調べる学習体験講座では、オリジナル味付けジンギスカンづくりやモデルロケット製作などを体験することで、郷土の魅力発見につながる学びを提供することができた。また、多くの企業にご協力いただくことで、地域全体で子ども達の探求学習を支援する機運を醸成した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか情報を発信する展示を行うことで、商店への来店や団体・サークルへの入会などの機会が生まれるなど、役立つ地域情報が提供できた。また、市民と行政情報を結ぶ発信拠点としての役割を担うことができた。 ・各種事業を通じて多くの成果を得られた一方、参加募集型のプログラムにおいては、学習意欲の高い家庭や特定の情報にアクセスできる層の利用に偏りがちである。保護者の関心度や情報収集環境によって、子どもたちの体験機会に格差が生じてしまうことは課題と感じており、今後は、これまで自発的な参加が少なかった層の子どもたちに対しても、いかに「体験の入り口」を広げ、公平に機会を提供できるかが重要である。既存の集客手法を再考し、学校教育とのより密接な連携や、日常生活の動線（放課後の動き、児童館、学童保育など）を活用したアウトリーチ活動の強化など、行政側から能動的に関わっていく仕組みづくりが求められている。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や企業との連携によって生まれた、新たな学習プログラムを今後どのように充実発展させ、より多くの児童・生徒に経験してもらえる仕組みづくり。 ・STEAM教育の要素を持たせたプログラムは、新しい海洋センター通称「B&G あそりバ」において、今後も充実させていく考えであり、B & Gあそりバで行うプログラムとスタッフが学校や他の施設に出向いて行うアウトリーチ活動を行うことで、子どもたちに様々な力の育成する機会を創出していきたい。 ・体験講座については、地域課題と一緒に考えるコースの開設や、定員数・内容の充実など、より多くの子ども達が参加できるよう見直しを図る。 ・引き続き図書館が活用できる場であることをアピールし、今後も有益な情報を市民へ発信できるよう努める。

全体を通じて（評価ポイント）	
<p>AI の急速な進化により、正解のない問いに対して「自ら考え、答えを導き出し、正しい情報を見抜く力」がこれまで以上に重要になっています。社会教育課では、学校での学びを基盤としつつ、STEAM教育をはじめとする「地域社会でのリアルな実体験」は、子どもたちに備わる「経験値」となり、将来を切り拓く力になると考えています。</p> <p>また、「たきかわDE調べる学習体験講座」は単なる学びの場にとどまらず、「地域で働く大人や企業と触れ合うキャリア教育」としての側面も重要視しています。子どもたちが地元の企業・団体と関わり、働くことの意義や社会の仕組みを肌で感じることは、将来の職業選択の幅を広げ、郷土への愛着を育むことにつながります。この活動を地域全体で推進し、子どもたちへの「社会と関わる楽しさの伝播」と、地域企業にとっての「未来の担い手との接点創出」という、双方にとって意義深い「ウィン・ウィンな好循環」を今後どのように深化させていくべきか。</p> <p>本事業のさらなる推進に向け、委員の皆様には以下の視点から忌憚のないご意見をいただけますと幸いです。</p>	
<p>1. 「体験を通じた学び」の価値について</p> <p>AI から瞬時に情報を得られる時代だからこそ、子どもたちが自分の頭で考え、「体験」を積み重ねることにはどのような意義があるとお考えになりますでしょうか。また、家庭環境や保護者の関心に関わらず、全ての子どもたちにこの「経験値」を深める機会を届けるために、教育行政としてどのような視点や工夫が必要だとお考えでしょうか</p>	
<p>2. キャリア教育としての連携について</p> <p>地域企業や団体が滝川市と連携し、子どもと大人が交流することは、キャリア教育の観点からどのような価値があるのでしょうか。また、より多くの企業が「次世代育成」に共感・参画しやすくなるための工夫や、連携を深めるための具体的なアイデアがありましたらご教示ください。</p>	
<p>3. 今後の展開に向けて</p> <p>地域の企業や団体と共に子どもを育てる仕組みを、一過性のものにせず、かつ広く行き渡らせるために、最も大切にすべきことは何だと思われますか。</p>	
外部評価会議委員からの評価・意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外でこのようなすばらしい活動、取組を体験できる子どもたちがうらやましいと感じる。これからも様々な方の力を借りて続けてほしい。 ・積極的に参加できる家庭もあれば、そうではない家庭は体験することができない。学校と協力し共に進めるアウトリーチでの授業などで多くの子どもたちが貴重な体験ができればと思う。 ・図書館が市役所に移転してから、高校生など利用者が多くなったと思う。本の貸し出しに限らず、展示などの施策も多く取り組んでいて頑張っていると感じる。これからも頑張ってもらいたい。 	

生涯学習の推進 イノベーションを担う人材育成、NPO・企業・地域団体等との連携・協働

Plan (達成目標)

【STEAM教育の実践】

1. 「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」を充実させ、地域との連携を強化した実社会での課題発見・解決に活かしていくための教科横断的な学習を行う。

STEAM教育とは、科学・技術・工学・芸術・数学の5つの領域を横断的に学び、実社会の問題解決に直結する創造力や論理的思考力を育む教育手法です。
文部科学省もこれからのAI時代を生き抜くための重要な学習として推進しています。

STEAM教育を構成する5つの要素

STEAMは、以下の5つの単語の頭文字をとった言葉です。

S (Science:科学): 自然現象の観察や実験を通じた探究心と科学的思考

T (Technology:技術): ICTやプログラミングを活用した情報収集と分析

E (Engineering:工学): 試行錯誤しながらものや仕組みを形にする力

A (Art:芸術・リベラルアーツ): デザインや創造性、多角的な視点や人間的な価値づけ

M (Mathematics:数学): 現象を論理的に読み解く数理的思考

【企業との連携による学びの推進】

2. 従来からのキャリア教育に加え、企業側からの主体的なアプローチにより、地元の人材を地元で育成するといった、学びを推進する。

【情報拠点としての図書館の充実】

3. 地域の情報拠点として「役に立つ魅力ある図書館」を目指し、行政や外部機関等と連携し、様々な情報を収集・提供することで、さらなる読書普及活動を推進する。

Do (実施状況)

【STEAM教育の実践】

1. 北海道教育大学未来の学び協創研究センターにご協力をいただき、「教育大学STEAM教室in滝川市こども科学館」を開催し、下記のプログラムを実施した。

①探究型プログラム

「こども科学館の記憶を残そう!」

②体験型プログラム

- ・「デジタルで命を吹き込もう!身近なものを生き物にデザインしよう」
- ・「滝川ナタネ油が大変身!世界に一つだけのマイクレヨンづくり体験」
- ・「火と氷で走るふしぎな車を走らせよう!」
- ・「プログラミングでロボットを動かそう!」

●期間: 令和7年9月13日(土)・14日(日)

●延べ参加者数: 60人



「プログラミングでロボットを動かそう!」
に取り組む児童の様子

2. 大日本印刷株式会社と共同で探求的な学習の実証実験を行う
期間限定施設として「こども科学館」の中に「ミラーボ」を開設。
大企業との共同の取り組みとして実施した。



ミラーボの取り組み

設置目的

新しいB&G海洋センターのオープンに向けて、STEAM教育をコンセプトとした施設「ミラーボ」を令和7年8月30日～11月30日の3ヵ月間、大日本印刷株式会社と共同で開設した。
「ミラーボ」では、未来の学びを探る実証的な取り組みとして、子どもたちに3Dプリンターやレーザー加工機を活用したものづくり体験などの創造的な学習機会の提供を行った。

主な事業

8月30日 ミラーボオープニングセレモニー

オープニングセレモニー及び各種ワークショップを実施し、ファブ機器を活用した「ものづくりの楽しさ」に触れる機会を提供した。

内容

- 歯車で動くロボットキーホルダーづくり ■缶バッジづくり
- 文字プレートキーホルダー／ミラーボキーホルダーづくり

参加者64名



9月13日・14日 北海道教育大学のSTEAM教室との連携事業

北海道教育大学との連携事業として、2日間にわたる探究型プログラム及び分野横断的なプログラムを実施し、STEAM教育の普及を行った。



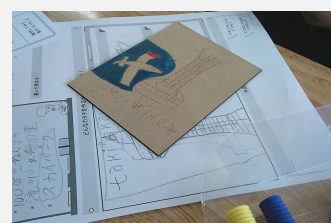
9月22日・29日 第三小学校出張ラボ

「伝えよう!わたしたちのまち ～滝川市の魅力を再発見～」をテーマに探究学習を実施し、ファブ機器を活用したロゴ制作を行った。

内容

- 滝川市についての学習 ■設計書作成 ■ロゴ・キャドデザイン
- レーザー加工機出力 ■装飾・色塗り ■発表

参加者78名



10月5日～11月23日(毎週日曜日) ミラーボ's team

小学4年生以上を対象に、再生可能エネルギーをテーマとした全8回の体験プログラムを実施し、継続的な学びの深掘りを行った。

内容

- プロトタイピングを学ぶ ■電気づくりを学ぶ ■発電を学ぶ
- 可視化のデザインを学ぶ ■5回～8回自由探究

参加者6名※定員6名



11月30日 ミラーボクロージングセレモニー

ファブ機器を活用した縁日や、体験型のサイエンスショーを実施し、楽しみながら科学や技術に触れる機会を提供した。

内容

- ミラーボ縁日(射的・輪投げ・魚釣り) ■サイエンスショー
- バーチャルカメラ体験

参加者150名



【企業との連携による学びの推進】

1. 株式会社マツオ様をはじめ、株式会社植松電機様、Letala株式会社様、FMなかそら様など企業や機関にご協力をいただき、将来の職業選択につながる学びの機会を提供する「たしかわDE調べる学習体験講座」を開催した。

●期間：令和7年7月29日～令和8年1月9日

●延べ参加者数：7コース、参加者数220名



オリジナル味付けジンギスカンを作る児童の様子

【情報拠点としての図書館の充実】

1. 地域の商店や団体・サークルにご協力をいただき、まちの情報を発信する展示「まちなかコンシェルジュ」を実施した。図書館で取材・作成したポスターについては、観光課や観光協会にも提供し、観光国際スクエアや道の駅たしかわでの情報発信にも活用されている。

●期間：令和7年4月～令和8年3月

【お店編】6件、【団体・サークル編】6件



まちなかコンシェルジュ【お店編】

2. 行政内部や外部機関などと連携し、図書と連携先から提供された情報リーフレットなどを組み合わせた展示を通して地域の情報を発信した。

●期間：令和7年4月～令和8年3月

●連携展示件数162件



JR北海道滝川駅との連携展示

Check (評価・反省点)

- ・ 北海道教育大学と連携したことにより、大日本印刷株式会社と繋がり、新たな取り組みに発展したほか、従来のこども科学館では取り組むことができていなかった最新機器を活用した学習プログラムの提供が可能となった。
- ・ STEAM教室in滝川こども科学館に参加した子どもたちのモチベーションの変化を追跡した結果、子どもたちに挑戦から達成へというポジティブな経験を提供し、※¹自己効力感・創造性・※²内省力の向上に寄与したと考えられる。また、体験によって得た具体的成果や結果は、達成感と学習意欲を高め、今後の学びへの自信につながったと評価できる。(アンケート調査結果)
- ※¹自己効力感=自分がある課題に対して「自分ならできる」「きっとうまくいく」と自分の能力を信じ、行動できる状態のこと。
- ※²内省力=自分の思考や行動、感情の動きを客観的に見つめ直し、深い気づきを得て今後の成長や行動に活かす能力のこと。
- ・ 調べる学習体験講座では、オリジナル味付けジンギスカンづくりやモデルロケット製作などを体験することで、郷土の魅力発見につながる学びを提供することができた。また、多くの企業にご協力いただくことで、地域全体で子ども達の探求学習を支援する機運を醸成した。
- ・ まちなか情報を発信する展示を行うことで、商店への来店や団体・サークルへの入会などの機会が生まれるなど、役立つ地域情報が提供できた。また、市民と行政情報を結ぶ発信拠点としての役割を担うことができた。
- ・ 各種事業を通じて多くの成果を得られた一方、参加募集型のプログラムにおいては、学習意欲の高い家庭や特定の情報にアクセスできる層の利用に偏りがちである。保護者の関心度や情報収集環境によって、子どもたちの体験機会に格差が生じてしまうことは課題と感じており、今後は、これまで自発的な参加が少なかった層の子どもたちに対しても、いかに「体験の入り口」を広げ、公平に機会を提供できるかが重要である。既存の集客手法を再考し、学校教育とのより密接な連携や、日常生活の動線（放課後の動き、児童館、学童保育など）を活用したアウトリーチ活動の強化など、行政側から能動的に関わっていく仕組みづくりが求められている。

Action (今後の課題・取組の方向性)

- ・ 大学や企業との連携によって生まれた、新たな学習プログラムを今後どのように充実発展させ、より多くの児童・生徒に経験してもらえる仕組みづくり。
- ・ STEAM教育の要素を持たせたプログラムは、新しい海洋センター通称「B&Gあそりバ」において、今後、充実させていく考えであり、B&Gあそりバで行うプログラムとスタッフが学校や他の施設に出向いて行うアウトリーチ活動を行うことで、子どもたちに様々な力の育成する機会を創出していきたい。
- ・ 地域課題を一緒に考えるコースの開設や、定員数・内容の充実など、より多くの子ども達が参加できるよう見直しを図る。
- ・ 図書館が地域情報の発信拠点としても活用できる場であることをアピールし、今後も有益な情報を市民へ発信できるよう努める。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和7年度	所管課名	滝川西高等学校事務局
推進計画の重点方針	教育DXの推進		
推進計画の施策の方向性	○ 刻々と変化する社会に対応し、職業に関して必要な知識やスキルを身に付けて、「学び」と「労働」の循環につなげることができるよう、社会人が学べる環境の整備を推進する。		
推進計画の主な取組	○ 滝川西高等学校における専門教育の充実		

① 達成目標 (Plan)	・ 地域や産業界と連携した教育を充実させ、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性を推進する。
② 実施状況 (Do)	<p>D Xハイスクール（正式名称：高等学校D X加速化推進事業）の取組</p> <p>●D Xハイスクールとは 社会ではあらゆる産業でデジタル化が進んでいますが、これに対応できる人材が日本全体では足りていないのが現状であり、課題となっています。 文部科学省では、高校の段階からICTやデータを活用する力を身につけ、大学教育へスムーズに接続し、これからのデジタル人材を育成することを目的として始まったのがD Xハイスクールです。</p> <p>●滝川西高等学校では、令和7年度D Xハイスクール（高等学校D X加速化推進事業）に採択され、デジタル情報関連学部等への進学者の増加やデジタル人材を育成することを目的に取組むこととしました。</p> <p>●この事業は取組にかかる費用やD X機器の整備費用の全額が、文部科学省の高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金で措置される事業です。</p> <p>●D Xハイスクールに採択された空知管内の主な高校 岩見沢東高等学校・岩見沢緑陵高等学校・岩見沢農業高等学校などが採択されています。</p> <p>①D X先進校視察（福岡県） ■日 程 令和7年10月16日（木）～19日（日） ■視察先 福岡県立小倉商業高校・北九州市立高校・久留米市立久留米商業高校 ■視察者 商業科教諭2名</p> <p>②D X先進校視察（鹿児島県） ■日 程 令和7年11月29日（土）～12月2日（火） ■視察先 指宿市立指宿高等学校・鹿児島市立鹿児島商業高等学校 ■視察者 情報マネジメント科1学年生徒2名、商業科教諭2名</p> <p>③生徒によるD X先進校視察報告会 ■開催日 令和7年12月15日（月）・16日（火） ■発表者 情報マネジメント科1学年生徒2名 ■参加者 情報マネジメント科1学年・2学年</p> <p>④ドローン特別講義 ■開催日 令和7年11月25日（火） ■講 師 KDDI スマートドローン株式会社新十津川校ほか</p>

	<p>■受講者 情報マネジメント科全学年３００人</p> <p>⑤ＤＸ機器の整備</p> <p>■プログラミングドローン、空撮用ドローン、プロジェクターほか</p>
③ 評価・反省点 (Check)	<p>●具体的な取組の決定までに時間を要しましたが、事業費を最大限活用しながらＤＸ機器も整備することができました。</p> <p>●先進校への視察には生徒２名も同行し、視察で学んだこと、気づいたことを在籍する生徒に向けて発表する報告会を開催しました。報告を受けた生徒にも取り組んでみたいことを考えてもらう機会となりました。</p> <p>●ドローン特別講義では実機を用意し、身近な分野で活用されている事例や、プログラミングでドローンを操ることができることを学び、生徒の関心を集めた講義となりました。</p>
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	<p>●視察において他校が取り入れていたデジタルに関する専門家や企業、大学等と連携する「伴走型支援※」も活用しながら取組を進めます（※伴走型支援とは、専門的な知識を持つ企業や専門家などがＤＸの事業や取組について学校をサポートし、高校と一緒に取組を進めていく（伴走する）体制のこと）。</p> <p>具体的には、北海道情報大学や北海道情報専門学校を訪問し、高校にはないＶＲスタジオなどの設備を見学し、先進技術を体験するツアーや講演会の開催、実社会でＩＴスキルを活用できるよう「アプリ開発の基礎」について西高向けオリジナルテキストを専門学校と連携して作成、活用する取組のほか、企業と連携し、映像投影のシュミレーションワークショップを行い、生徒がデジタルコンテンツ制作に興味を持ってもらうきっかけ作りを進めてまいります。</p>

全体を通じて（評価ポイント）	
<p>●ＤＸハイスクール（高等学校ＤＸ加速化推進事業）の継続校として令和８年度も引き続き採択されました。整備したＤＸ機器を効果的かつ継続して活用していくとともに、生徒の情報分野への関心を高め、学びを深める取組を計画的に実践し、事業の目的でもあるデジタル情報関連学部等への進学者の増加やデジタル人材の育成に向け今後も取り組んでまいります。</p> <p>今後の取組に向けて、皆さまからのご意見・ご提案をいただければ幸いです。</p>	
外部評価会議委員からの評価・意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校でＩＣＴの活用が進んでいる。滝川西高等学校として予算をつけて継続し特色ある高校の取組として進めてもらいたい。ＤＸを進めている滝川西高等学校に進学したいと考える生徒が増えると良い。 ・ＤＸは１年で成果がでるものではないと考える。ＤＸハイスクールは継続して採択が受けられるのか。補助ありきではなく、専門学校や企業と連携し、継続性のある取組になればと思う。 	

教育DXの推進 ○滝川西高等学校における専門教育の充実

Plan（達成目標）

地域や産業界と連携した教育を充実させ、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性を推進する。

Do（実施状況）

DXハイスクール（正式名称：高等学校DX加速化推進事業）の取組

●DXハイスクールとは

社会ではあらゆる産業でデジタル化が進んでいますが、これに対応できる人材が日本全体では足りていないのが現状であり、課題となっています。

文部科学省では、高校の段階からICTやデータを活用する力を身につけ、大学教育へスムーズに接続し、これからのデジタル人材を育成することを目的として始まったのがDXハイスクールです。

●滝川西高等学校では、令和7年度DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）に採択され、デジタル情報関連学部等への進学者の増加やデジタル人材を育成することを目的に取り組むこととしました。

●この事業は取組にかかる費用やDX機器の整備費用の全額が、文部科学省の高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金で措置される事業です。

●DXハイスクールに採択された空知管内の主な高校

岩見沢東高等学校・岩見沢緑陵高等学校・岩見沢農業高等学校などが採択されています。

①DX先進校視察（福岡県）

■日 程 令和7年10月16日（木）～19日（日）

■視察先 福岡県立小倉商業高校・北九州市立高校・久留米市立久留米商業高校

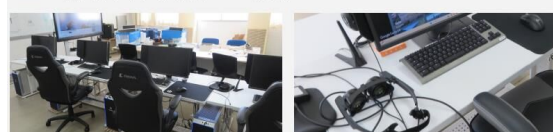
■視察者 商業科教諭2名

先進校において整備されたDX機器や授業での活用方法について視察しました。

小倉商業高校で開催されていた大規模販売会「倉商マーケット」（来場者約7,000人）の視察では地域と連携し、住民を呼び込む手法についても学ぶことができました。



02. 北九州市立高校 DX機器



ハイスペックPC

- 5台を学校の中心の部屋に設置
- 放課後生徒へ開放し、自由に使用
- eスポーツや動画制作等で活用

VRゴーグル

- ハイスペックPCと同じ部屋に5台設置
- Google Earth VR等で活用

「授業で使わせる」→生徒が「使いたい」から使う

教育DXの推進 ○滝川西高等学校における専門教育の充実

②DX先進校視察（鹿児島県）

- 日 程 令和7年11月29日（土）～12月2日（火）
- 視察先 指宿市立指宿商業高等学校・鹿児島市立鹿児島商業高等学校
- 視察者 情報マネジメント科1学年生徒2名、商業科教諭2名

視察には情報マネジメント科の生徒2名も同行し、全国で初めて生徒全員が株主となって「株式会社指商」を設立した指宿商業高校などを訪問しました。DX機器を課題研究で活用するなど先進校での取組を学ぶとともに、開催されていた大規模販売会「指商デパート」も視察することができました。生徒にとっても同じ商業科がある他校の取組を直接見て、滝西では何ができるのか考える機会となりました。



指宿デパート

文化祭とは別でバザー（販売会）を実施
生徒がステージで出し物を行う文化祭とは異なる行事。

学年ごとに異なる役割

販売は2、3年のみ。1年は駐車場、清掃、アンケート等。

会計に関する丁寧な講習を実施

会計講習とキャッシュレス導入により現金不足なしの店舗
が30%→60%へUP

外国の学びを販売会で実践

授業で学ぶ中国語・韓国語を生かしてポスターや接客で実践。

③生徒によるDX先進校視察報告会

- 開催日 令和7年12月15日（月）・16日（火）
- 発表者 情報マネジメント科1学年生徒2名
- 参加者 情報マネジメント科1学年・2学年

11月下旬に鹿児島県内のDX先進校を視察した情報マネジメント科の生徒2名による報告会を開催しました。

視察した学校での特色ある取組などについてまとめたスライドを活用し、参加した生徒へ発表を行いました。報告を受けた生徒からは、滝西でもドローンを活用した取組ができるのではないかなど、生徒が取組を考え意見を出し合う報告会となりました。



教育DXの推進 ○滝川西高等学校における専門教育の充実

④ドローン特別講義

- 開催日 令和7年11月25日（火）
- 講師 KDDIスマートドローン株式会社新十津川校ほか
- 受講者 情報マネジメント科全学年300人

ドローンが物流や鉄塔の点検、災害時の被害状況の確認などに活用されている事例やプログラミングで動きを指示したドローンショーを見学し、社会実装が進んでいる現状を学ぶとともに、最先端の技術への興味と関心を高める講義となりました。



⑤整備した主なDX機器



プログラミングドローン



空撮用ドローン



プロジェクター

Check(評価・反省点)

- 具体的な取組の決定までに時間を要しましたが、事業費を最大限活用しながらDX機器も整備することができました。
- 先進校への視察には生徒2名も同行し、視察で学んだこと、気づいたことを在籍する生徒に向けて発表する報告会を開催しました。報告を受けた生徒にも取り組んでみたいことを考えてもらう機会となりました。
- ドローン特別講義では実機を用意し、身近な分野で活用されている事例や、プログラミングでドローンを操ることができることを学び、生徒の関心を集めた講義となりました。

教育DXの推進 ○滝川西高等学校における専門教育の充実

Action (今後の課題・取組の方向性)

●視察において他校が取り入れていたデジタルに関する専門家や企業、大学等と連携する「伴走型支援※」も活用しながら取組を進めます。

（※伴走型支援とは、専門的な知識を持つ企業や専門家などがDXの事業や取組について学校をサポートし、高校と一緒に取組を進めていく（伴走する）体制のこと）。

具体的には、

●北海道情報大学や北海道情報専門学校を訪問し、西高にはない仮想現実の映像やゲームなどを制作するVRスタジオを見学し、先進技術を体験するツアーを計画しております。

●専門学校と連携して「アプリ開発の基礎」をテーマにした西高専用のデジタルテキストを作成し、活用することで、これからの社会で役立つITスキルを身につけます。

●企業と連携し、映像投影の体験型研修を行い、生徒がデジタルコンテンツ制作に興味を持ってもらうきっかけ作りを進めてまいります。

全体を通じて（評価ポイント）

●DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）の継続校として令和8年度も引き続き採択されました。

整備したDX機器を効果的かつ継続して活用していくとともに、生徒の情報分野への関心を高め、学びを深める取組を計画的に実践し、事業の目的でもあるデジタル情報関連学部等への進学者の増加やデジタル人材の育成に向け今後も取り組んでまいります。

今後の取組に向けて、皆さまからのご意見・ご提案をいただければ幸いです。